

令和2年6月

第1回大野市小中学校再編計画検討委員会  
会議録

日 時：令和2年6月22日（月）午後7時00分～午後8時45分

場 所：結とぴあ 3階 305・306号室

## 第1回大野市小中学校再編計画検討委員会 次第

と き 令和2年6月22日  
午後7時より  
ところ 結とびあ

1 開会、委嘱状交付

2 教育長あいさつ

3 正副委員長選出

4 議事

(1) 大野市小中学校再編計画検討委員会について (資料No.1、2)

(2) 再編計画の経過について (資料No.3)

(3) 意見交換会、アンケートの結果について

(4) 教育環境の現状について (資料No.4)

(5) 再編計画の見直しに向けた教育委員会の方針について (資料No.5)

5 その他

6 閉会あいさつ

< 出席者 >

委員	松遠	木藤	健洋	一子
委員	中松	藤村	昌壽	嗣子
委員	朝金	田日	智和	幸信
委員	金山	井川	和龍	信一郎
委員	常宮	見澤	悦則	博貴
委員	細丸	道山	常力	哉亮
委員	上山	田本	智恭	亮子
委員	伊齊	藤藤	惠利	奈次
委員			雄	

事務局（説明者）

教育長	久保	俊	岳
事務局長	清	水	司
教育総務課長	横	田	弘
学校教育審議監	千	田	佐
教育総務課課長補佐	松	下	子
教育総務課課長補佐	小	林	信
教育総務課主事	堀		考

（書 記）

< 傍聴者 >

10人

## 【開会】

【事務局】本日は10名の傍聴を許可したので報告する。それでは第1回大野市小中学校再編計画検討委員会を開会する。

——<大野市教育理念の唱和>——

## 【委嘱状交付】

【事務局】第1回目の会議なので委嘱状を交付する。

——<委員名簿読み上げ>——

【教育長】大野市小中学校再編計画検討委員会委員に委嘱する。任期は令和2年6月22日より、設置要綱に定める所掌事項の検討及び報告が終了するまでの間とする。

## 【教育長あいさつ】

【教育長】令和元年5月12日にこの事業のキックオフとして、結の故郷教育シンポジウムを開催した。それから1年が経過し、その間、大野市教育委員会では小中学校の保護者や未就学児の保護者、地域住民、教職員、各団体を対象に41箇所意見交換会を開催し、アンケートを集計した。また、児童生徒を対象に意識調査も実施した。以上を踏まえての検討委員会となるのでよろしくお願いしたい。

大野市は令和2年度と令和3年度の2年間、国立教育政策研究所の指定を受けて「魅力ある学校づくり」を進めることとしている。1年目の令和2年度は、陽明中学校、下庄小学校、有終東小学校、乾側小学校で構成する陽明中学校区研究会で取り組みを進め、2年目の令和3年度には、全ての小中学校にその成果を広げ、大野市全体のレベルアップを図っていく。児童生徒が楽しく学校に通うことができ、保護者や地域住民に信頼される学校の姿とは何かを見つめなおしていく。

学校再編は「魅力ある学校づくり」の一環である。児童生徒数が減少し学校再編が大きな問題となっているが、再編することが目的ではなく、大野の子どもたちに望ましい教育環境を整備することが目的となる。

この検討委員会では、現計画の特に、学校数や再編時期、再編方法、この3つについて議論していただきたい。あわせて、普段抱いている学校の在り方について意見をいただきたい。

新型コロナウイルスにより世の中が劇的に変化しようとしている。学校の在り方も変化しなければならない。一方、変わってはならないこと変えてはなら

ないこともある。不易と流行を見極めることが大切な時期に来ている。

学校再編は難しい課題であるが、大野市の未来の姿を考えると、絶好の機会となる。必ず答えはあると確信しているので、一緒に解を探していきたい。

【事務局】本日が初めての会議となるので、委員の皆様から一言自己紹介をお願いします。

——<委員自己紹介>——

【事務局】本日出席の事務局職員の自己紹介をする。

——<事務局自己紹介>——

### 【正副委員長選出】

【事務局】設置要綱第5条第2項により、委員の中から正副委員長を選出したい。選出方法についてどのようにするとよろしいか。

——<事務局一任の声あり>——

【事務局】事務局一任としてよろしいか。

——<異議なし>——

【事務局】事務局案を申し上げる。委員長に福井大学理事・副学長の松木健一委員を、副委員長に学識経験者の遠藤洋子委員を選出する。

——<承認>——

【事務局】正副委員長を代表して、松木委員長に一言あいさつをお願いします。

——<委員長あいさつ>——

【委員長】今の時代はグローバル化が進み、合意形成能力が最も必要な能力とされている。学校は一人一人のアイデンティティでもあるので、合意をしていくのは難しいが、「魅力ある学校をつくる」という目標に向けて、委員全員が「これしかない」と納得できる報告ができるような検討委員会にしていきたい。

【事務局】設置要綱第5条第3項により、これ以降の進行は委員長をお願いします。

### 【議事】

【委員長】(1) 大野市小中学校再編計画検討委員会について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればをお願いします。

——<意見・質問なし>——

【委員長】(2) 再編計画の経過について、(3) 意見交換会、アンケートの結果について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【委員長】（４）教育環境の現状について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【委員】小中学校の施設の状況について、耐震化の状況はどうか。

【事務局】乾側小学校を除いて耐震化が完了している。ただし、コンクリートの強度等については耐震化しても変わらないので、別に考える必要がある。

【委員長】国の方針としても、建物を５０年～６０年使用するという方向に切り替わってきている。

【委員】中学校における免許所有教員の配置がない学校については、家庭や技術などの授業をどのように実施しているのか。

【事務局】免許所有教員がいなくても、他教科の教員が福井県の研修を受け、福井県教育委員会の承認を得たうえで授業を実施している。

【委員】陽明中学校の野球部やサッカー部について教えてほしい。

【事務局】今現在、単独で試合に出られない人数となっている。

【委員長】（５）再編計画の見直しに向けた教育委員会の方針について、説明をお願いします。

【教育長】再編を検討していくため、基本的な考え方を示した。この資料を作った目的は３点ある。１点目、私が議会や意見交換会等で答えてきたことをまとめた。２点目、令和元年度の取組を反映した。３点目、検討委員会で検討していくための基本的な部分を整理した。

——<教育長説明>——

【委員長】ご意見、ご質問等があればお願いします。

【委員】専門教科教員の配置はどのように決定しているのか。

【事務局】児童生徒数により学級数が変わり、学級数により教員の配置が決まる。学級数が少ない学校は専門教科教員の配置が難しくなる。

【委員長】議事については、以上とする。

## 【その他】

【事務局】本委員会の今後の議論の参考として、松木委員長に講話をお願いしたい。

——<委員長講話>——

〈講話概要〉

- ・コロナ禍の中で一番大きなキーワードは「３密」である。
- ・医療や教育などの人にかかわる仕事は「親密」な関係を築くことが必要である。

- ・アフターコロナを考えた場合、「3密」を維持しながら「親密」な状態を築くというアンビバレント（相反するよう）なことを求められている。
- ・ヴァーチャルは解決策の一つかもしれない。
- ・県外の学校では、5月からネットを使って普通の時間割で授業を実施しているところもある。
- ・ネットを利用し授業ができているところ、全くできていないところとの学力に差がついていく。
- ・日本は教師に対する信頼が厚くあったため、先進国の中でICT化が遅れた。
- ・アフターコロナは今まで通りには戻らず、ICT化を進めていく必要がある。
- ・GIGAスクール構想が進めば、学校の形態が変わってくる。
- ・ICT化が進めば、宿題や授業の在り方が変わってくる。
- ・国の方針が大きく変わってくる中で、学校がどうあるべきか問われてきている。
- ・これからは学校の本質を問い直すことをしていかなければいけない。
- ・勉強して覚えることは学校の専売特許ではない。
- ・単に覚えることが目的であれば、ICTの活用によって統廃合しなくてもいいという可能性も出てくるかも知れない。
- ・覚える学習活動以外のことを学校が提供できるかどうか問われている。
- ・それがどの程度の学校規模であれば維持できるのかが問われている。
- ・学校は何をやる場所なのか、適正規模とは、学力とは何かを考えていく必要がある。
- ・学力の在り方が変わってくる中で、どういう学校の姿がいいのかを考えていかなければいけない。
- ・小学校、中学校、保育園という枠を取っ払っていくこともいいかも知れない。
- ・大野市の実情にあった、小さな地域の中でできる仕組みを考えていく必要がある。
- ・地域の核を、学校を中心に様々なものを組み合わせていくこともあるかも知れない。
- ・学校だけの問題ではなく、まちづくりの問題として学校を位置付けていかなければいけない。
- ・知識集約型社会の今、リモートワークやテレワークが増えてきている。
- ・これからは地域の豊かさを確認しながらリモートワークができるような人材が求められてくるかも知れない。
- ・単純に学校再編だけを考えるのではなく、地域づくりと組み合わせて考えていく必要がある。

【事務局】 次回の会議では、各委員の再編に対する想いを述べていただきたいと考えている。

【事務局】 次回の会議は7月30日（木）を予定している。

【閉会】

——<副委員長あいさつ>——

【副委員長】 本当に今学校がなすべきこと、学校でなければできないことは何なのか、そこまで考えて、それに見合った学校の再編あるいは適正規模について慎重に考えていかなければいけない。次回までに、大野の子どもたちにとってどんな再編の在り方が望ましいのかじっくり自問自答していきたい。次回もまたより慎重に丁寧な話し合いができるようによろしくお願いしたい。